

地域における ITS まちづくりの進め方 ～ 実践的な取り組みを踏まえて～

ITS・新道路創生本部

浦野 隆 津島 葉子

REPORT

1 はじめに

ITSの進展に伴い、現在ではその裾野が遙かに拡大した状況となっている。ITSは21世紀に本格化した新たな社会システムであり、社会生活や経済を活性化し、新ビジネスを創出する潜在的な能力を有している。社会が構造的に変化する中で、新たな視点からのITS推進展開が望まれる。

本稿では、平成16年度に検討した「ITSによるまちづくりマスタープランモデル検討」をベースに地域ITSの実践的な取り組みを踏まえて、ITSによるまちづくりの基本構想の考え方、並びに、持続的な展開を具体化するための基本構想モデルについて検討を行った。

2 ITS導入における留意点

社会経済環境が大きく変わり、現在進行しつつある成熟社会は、基本的には「同質性から異質性の時代へ」と移行していく。かつて工業化社会は大量生産・大量販売・大量消費を謳歌し、マス現象や大衆社会を生み出した。それは、同質性を強調・重視する社会であった。しかし、現在、生産は多品種少量生産方式に転換し、「個性と本物と手作り」を志向するようになった。利用者・消費者に多種多様なニーズや

選択肢を用意しなければならなくなっている。行政分野においても、総じて、国主導で地域格差是正を進めてきた時代から、地方自治体主導による地域の特性を活かした地域の自立を進める時代へと変化してきている。また、地域では、住民による様々なまちづくりが進行している。

本来、ITSに包含させている様々な構想は、ITSと呼ばれる以前から、交通事故、渋滞、環境負荷の増大といった「道路整備と自動車の普及の負の遺産」の軽減、緩和、解決の方策として、関連省庁においてそれぞれに取り組みが行われてきた。しかし、ITS全体構想では、基本的には全国共通的な交通問題・課題に対応するグローバルスタンダード的な内容となっており、ローカルな地域特有の問題・課題への対応では、限界があるように思われる。また、地域における施策は、地域全体の総合的な視点からの検討が必要であり、部分的な個別施策ではなく、横断的な施策が求められている。

今までの工業化社会では、遍く均一化していくグローバリゼーションが大きな流れであったが、成熟社会を迎え価値観が多様化するに従い、地域固有のあり方を模索するローカリゼーションの動きが活発となってきている。今や、地方分権時代が到来する中で、様々な主体の参加のもとに地域特性を活かした地域・まちづくりが進められている。したがって、現在のITS施策をそのまま導入するだけでは、導入できる地域も限られ効果も薄いものとなっており、普及はあまり期待できない状況にある。今後は、ITSに限らず、従来のようなグローバルスタンダードな構想だけでは不十分であり、地域特性に合わせて活用できるきめ細かいローカルアプリケーション施策が必要である。両者が対立する方向に解決点を見出すのではなく、両者を統合するローカリゼーションの方向から施策を検討していくことが重要である（表1）。

ITSの地域展開は、多くの地域で検

表1 今後の方向性

(これまでの対応)		(今後の方向性)	
○ 部分的な対応	→	○ 総合的なサービスの提供	
○ モードごとの対応	→	○ モード横断的な取り組み	
○ 技術的なアプローチ中心	→	○ サービスに対応した施策	
○ 国主導での推進	→	○ 地域の連携・協働	
○ グローバリゼーション	→	○ グローカリゼーション	

討・導入が行われてきたが、イベント的な試みやモデル実験レベルに留まり、地域課題への対応策として定着してきたとは言い難い。総じて、ITSの地域展開を顧みると、先駆的な地域に対する先進的な情報通信技術の活用支援が中心であり、技術的な視点が強いアプリケーション開発の推進となっている。ITSは、当然、交通問題の解決が第一義であるが、地域に展開する上では、その施策は地域構想へ対応できるものでなければならない。地域社会の課題解決や活性化・振興にどれほど寄与できるか否かにポイントがある。ITSを地域展開する上では、そのような地域・まちづくりと、如何にして連携・協働していくかが重要な課題である。また、地域の多様な固有の特性にあわせたITSの展開を、地方自治体やまちづくりグループなどに支援・協働していく仕組みが必要である。

3 ITSの新たな方向性

ITSは、当初、道路交通のインテリジェント化を出発点としてきたが、ITの進展に伴い現在ではその裾野が遙かに拡大し、高度情報通信社会との関連で位置づけざるを得なくなっている。今後の国づくりや地域・まちづくりの上で重要な役割を果たしていくことが期待される。

ITSの新たな方向性としては、

- ◇ シームレスアクセスが可能なインターモーダル交通基盤の構築
- ◇ 誰もが自由に利用できる安全なモビリティ環境の形成
- ◇ 安全・安心できる生活移動環境の形成

が想定される(図1)。

今後は、ITSは自動車交通に限定することなく、鉄道、航空、船舶などの全ての交通システムを対象とすべきで

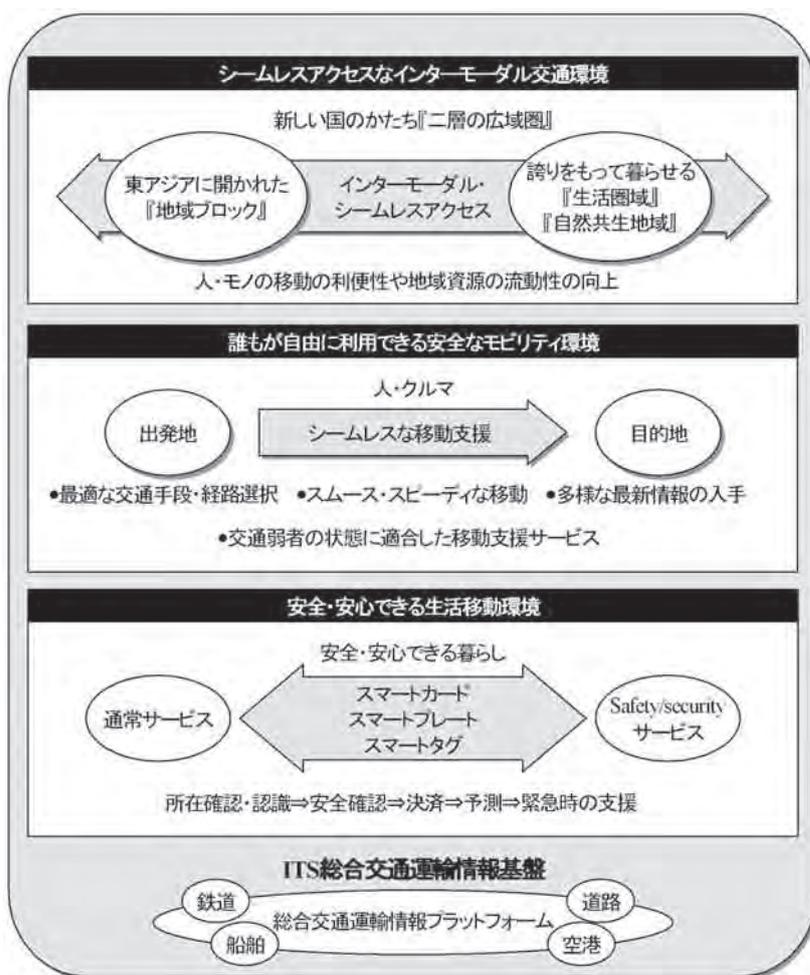


図1 ITSの新たな方向性

あり、人々の移動に沿った全ての交通機関においてシームレスなサービスを提供していくことが重要である。そして、誰もが享受できる快適で安全なモビリティ環境を提供するものでなければならない。また、日常生活の様々な場面で安全・安心な移動の確保も重要である。さらに、新たな展開においては、

- ◇ ITS グランドデザインの構築
- ◇ 地域性を意識したITS社会資本の整備
- ◇ 市民参加による合意形成とパートナーシップ(協働)の形成などにも留意する必要がある。

各地域において様々な形態で個性的で魅力的な地域・まちづくりが進められているが、まちづくりは市民生活の

質の向上が起点となり、その対象は、環境、景観、防災、福祉、交通など、生活に関わる幅広いテーマや領域に及んでいる。

ITSの普及促進を図るためには、これらまちづくりとの連携・協働が不可欠であり、ITSを地域・まちづくりの視点から見直し、様々な地域の要望に応えられる形に進化させていくことが重要である。

4 ITSまちづくりの重要な視点

(1) 地域要件への対応力の向上

① まちづくりの視点からのサービス
地域特性を考慮した総合的な視点からの交通まちづくり、つまり、交通政策の総合化が重要である。また、交通

のみならず環境、景観、防災、福祉など、生活に関わる幅広いテーマや領域の視点から、ITSの展開を検討することが重要である。これら各々のテーマや領域は、決して独立したものではなく、相互に関連をもっており、ITSサービス展開においても十分考慮していく必要がある。

② モード横断的な取組み

ITSまちづくりにおいては、モード横断的な機能の充足により、地域の交通全体のパフォーマンスを高めていくことが重要である。さらに、交通におけるモード間に限らず、都市部と郊外などの地域間、高齢者と若者などの世代間においても、シームレスなアクセスを実現する必要がある。

③ ITSまちづくりの支援組織

ITSの検討・導入が多く地域で行われているが、その成果やノウハウが相互に活用できる形で蓄積されているとは言い難い。ITSまちづくり活動を促すためには、当面、全国で得られたITSまちづくりのデータ・情報・ノウハウ・人材をデータベース化し、必要に応じて適宜提供していく仕組み、さらに地域のまちづくりグループや地方自治体などに対して地域特性に合わせた活用方策の立案を支援することが重要となる。

(2) 地域まちづくりとの連携・協働

① 地域まちづくりプラットフォームへの参画

まちづくり政策の策定過程において企業、NPO、市民グループ、公的機関などの多様な主体が参画する機会が多くなっている中、ITSまちづくりを進める上でも、個人や専門家あるいは組織団体として、プラットフォームに参加することが必要不可欠である。この場での議論を通じて、地域ニーズ、

まちづくり政策、またITSで実現されるサービスが何なのかを理解されるとともに、新たなアイデアが生まれる可能性もある。

② ITS活動の地域NPO化

まちづくり活動においては、それぞれの分野の専門的な知識・ノウハウを持つ人材が必要とされるようになっていく。これまで専従的な専門家を擁する特定非営利活動法人（NPO法人）が設立されてきているが、ITSまちづくりを展開する上においても、ITS活動のNPO化を考える必要がある。

(3) ローカリゼーションへの対応

成熟社会を迎え価値観が多様化するに従い、地域固有のあり方を模索するローカリゼーションの動きが活発になっている。ITSまちづくりを進める上で、地域固有のあり方を模索するローカリゼーションへの対応、さらには、地域がもつ固有の資源（人、モノ、情報など）、個性的な資源の活用が重要である。

(4) ITSまちづくり基本構想の立案

地域社会全体のパフォーマンスを高めるには目標を具体的に明らかにして、多様な主体の役割分担と協働により実践し評価していくことが必要である。すなわち、多様な主体の地域経営によるPDCAサイクルの実践が必要になっている。その実践のためには、まちづくり活動の全体計画、つまり、まちづくり基本構想が必要となる。

5 ITSまちづくり基本構想モデル

ITSは、環境、景観、福祉、交通などほぼ全てのまちづくりに貢献すると思われる。ITSは、「インターモダルのシームレスアクセスとなる交通基盤の構築」、「誰もが自由に利用できる

モビリティ環境の形成」、「安全・安心な生活移動環境の形成」という形で、様々なまちづくりの中でモビリティの向上という重要な役割を果たして行くものと思われる。

ここでは、『人と環境を重視した新しい時代の地域交通の創出』、『地域の活性化に寄与する交通環境の創出』というビジョンを設定し、基本構想のモデル構築を試みた。

(1) 基本構想策定のプロセス

まちづくり基本構想は、地域の多様な主体の参加による議論を通して、その合意のもとに策定される。その政策形式の過程については、最初に、これまでの地域づくりの評価分析により、何がうまくいったか、何がうまくいかなかったか、またうまくいかなかった理由は何か、今後、どのような課題に地域はさらされるのか、などを把握することが出発点となる。つまり、

- ・地域の共通の課題の確認・社会潮流の分析
 - ・過去の地域づくりの評価
 - ・地域の内在的資源の発掘・再評価
- を行い、これをもとに戦略策定が行われる。戦略策定においては、多くの住民、NPO、企業などが最も強く課題と感じているテーマに関して課題を評価し、合意を得て生活課題を集約し、優先順位を付ける。そして、地域に関わる多様な主体が、生活課題に対応しながら今後どのような地域でありたいかについて、地域のあるべき姿を共有するために、ビジョンづくりが必要となる。地域が何を望むかを決定した後、地域戦略を策定する。戦略は、地域が目的を達成することをどのようにして実現するかを説明するアクションプランの根拠となる。また、アクションプランは、戦略を実施して行くために必要な戦略および仕事を示すものとなる。
- このように、多様な主体の参加のも

とに一連の作業を通して、まちづくり基本構想が策定される。

① ITSによる公共交通を重視した環境の創造

a) 着眼点

人と環境を重視した新しい時代の地域交通の実現に向けては、過度に自動車に依存するライフスタイルに対する共通認識を市民全体で醸成しつつ、環境に優しい公共交通の利便性を向上させ利用促進を図ることが重要である。ITSを活用し、地域内における円滑な公共交通利用を実現し、地域の魅力向上と活性化を交通面から支えることを目標とし、定時性の確保など信頼性が高く、質の高い、誰にでも親しまれる交通システムを実現する。特に、地域内のアクセス機能の向上や乗継のシームレス化などの施策展開を進めることが必要である。

b) 基本構想

車への過度の依存は、交通事故、交通渋滞、駐車問題、環境悪化などの問題を増大させている。鉄道や地下鉄などの公共交通機関は、すぐに自由に移動できるという随意性の点では自動車に劣るものの、輸送能力や環境特性では乗用車やトラックより優れた合理的な交通手段である。このような公共交通機関と自動車交通それぞれの特徴を生かし補完し合えば、環境に優しい合理的な交通輸送環境を実現することが可能となる。人・モノ・車とのシームレスな情報の授受を可能するITSは、公共交通機関と自動車のスムーズな連携を促す役割を果たし、結果として車の総量抑制が実現される。その実現のための基本的な構想を以下に示す(図2)。

ITSの活用により、家庭やオフィスに即時に即場的な道路情報や公共交通の運行情報が提供される。それにより、

ある人は、自宅を出る前に車の流入量を抑制する環境ロードプライシング情報を確認して、カーナビゲーションシステムを活用して都心に向かう。また、ある人は、車を共同利用するカーシェアリングシステムやデマンドバスで駅に向かう。車で直接駅に向かう人は、途中でパークアンドライドを活用することになる。駅では、携帯電話などの情報端末で得られる乗り場や電車などの案内情報に従いスムーズに乗り継ぎができる。事故が発生した場合は、代替経路情報が提供される。電車やバスへの乗車には、汎用電子乗車カードが使われ、乗り換える度に乗車券を買う必要がない。

このように、出発地から目的地へ到着するまで、ITSの展開によりシームレスな移動支援が実現され、環境と調和の取れた便利で快適な交通システムが実現される。

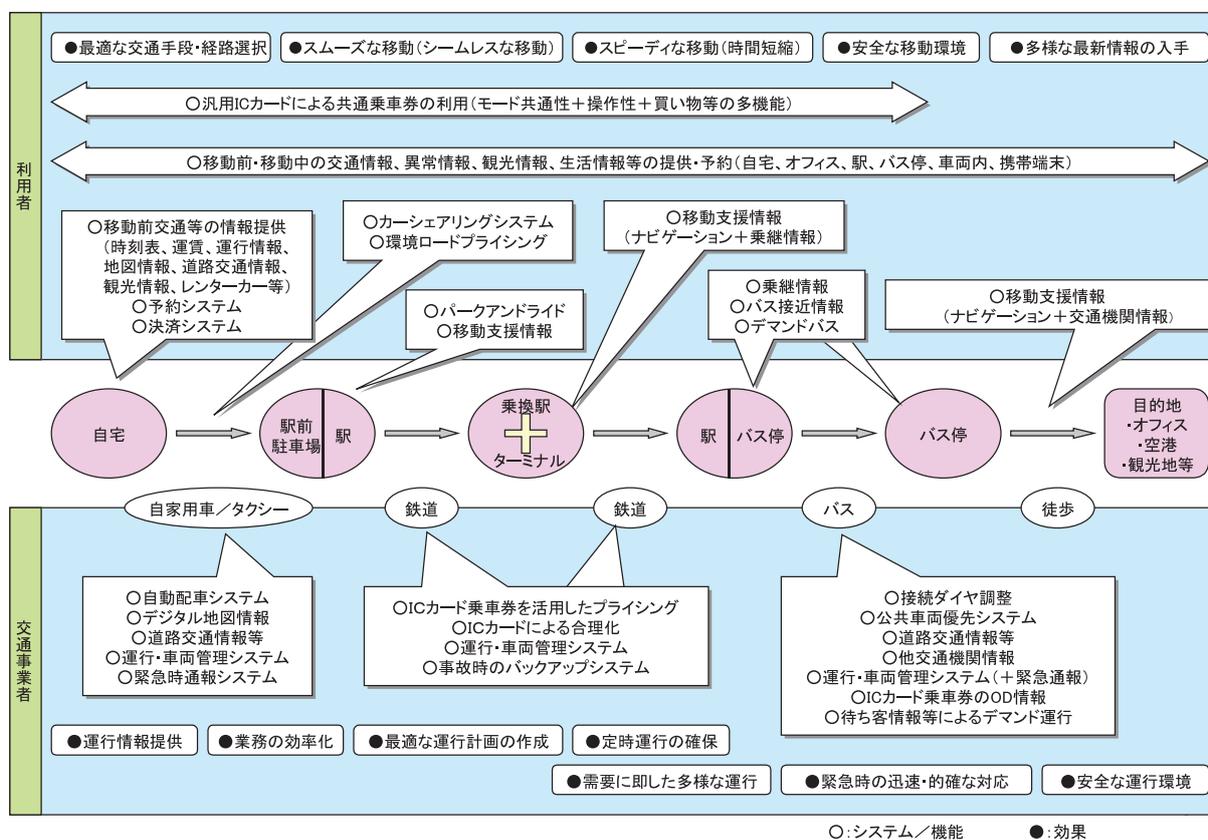


図2 ITSによる便利な公共交通利用環境イメージ

表2 公共交通を重視した環境まちづくりの ITS 展開メニュー

施策	具体的な展開メニュー
アクセス機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> カーシェアリングシステムによる車の共同利用 パークアンドライドによる公共交通への乗り換え デマンドバスシステムによる利便性の向上 バスロケーションシステムによる利便性の向上 環境ロードプライシングによる自動車使用の抑制 交通信号制御による公共車両（バス）の通行優先 交通情報提供による混雑道路の交通分散
乗り継ぎの円滑化	<ul style="list-style-type: none"> 汎用電子乗車カードの活用によるプライシング 乗り継ぎ情報の提供
シームレスな情報提供（ポータルサイト）	<ul style="list-style-type: none"> 移動前交通情報（道路交通情報、公共交通運行情報等） 移動支援情報（交通機関情報、目的地情報） 乗り換え情報（乗り換え案内情報、事故時の代替経路情報等）

表3 多様なモビリティを重視した景観まちづくりの ITS 展開メニュー

施策	具体的な展開メニュー
アクセス機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> デマンドバスシステムによる利便性の向上 コミュニティバスによる利便性の向上 バスロケーションシステムによる利便性の向上
乗り継ぎの円滑化	<ul style="list-style-type: none"> 汎用電子乗車カードの活用によるプライシング 乗り継ぎ情報の提供（バス、電車、鉄道、地下鉄等）
回遊情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者・障害者支援情報（段差の警告、経路誘導等） 街並み情報（景観案内、経路案内、交通案内、イベント情報、観光案内、お店案内等）

c) ITS展開メニュー

公共交通を重視した環境まちづくりにおける ITS 展開メニューとして、表2が考えられる。さらに、ITS を活用したモノの輸送における環境負荷の低減も考えられる。ITS は、トラック輸送と鉄道貨物や内航海運と連携を可能とし、環境負荷の低減の視点からロジスティクスの最適化・効率化が促進される。目的に応じて最適なインターモーダルな輸送手段が選択され、トラック輸送においても最適経路の選定や災害時の代替経路の選択が可能となる。

② ITSによる多様なモビリティを重視した景観の創造

a) 着眼点

自由に楽しく歩きたい歩行者、高齢者や障害者など移動に制約がある人、

スムーズに移動したい自転車利用者など、多様化する交通ニーズへの対応に向けては、「見て美しい」、「歩いて楽しい」、「使って便利な」移動空間の形成を進めることが重要である。

ITS を活用し、地域内の自由・快適なモビリティ環境を実現し、地域の魅力向上と様々な交流をモビリティの面から支えることを目標とし、誰もが安全で快適に生活できる新たな都市景観を実現する。特に、地域のアクセス機能の向上や移動案内機能などの施策展開を進めることが必要である。

b) 基本構想

鉄道などの公共交通機関や道路などの案内表示を、交通事業者相互の連携により、ルートナンバーや絵文字の採用などにより誰もが分かり易い表示が促進される。高齢化が進む中では、鉄

道駅などにおいてエレベーターやエスカレーターが設置され、ノンステップバスやコミュニティバスが適切に運行される。

道路整備にあたっては、街路樹など植栽の効果的配置や、共同溝による電線類の地中化、バリアフリー化の推進などに取り組み、「見て美しい」、「歩いて楽しい」、「使って便利な」空間形成が進められ、アメニティや景観を重視するまちづくりが促進される。ITS を活用し、鉄道・地下鉄・バスなどの総合的な公共交通利用情報、観光ルートや宿泊施設などの観光情報などが提供され、また、歩きながら街並み情報も得られる。さらに、出発地から目的地へ到着するまで、必要に応じて移動支援情報が提供される。

このようにして、地域の文化を育てる土壌となる「人・モノ・情報」の交流が促進されていく。これは交流が活発になる新たな都市景観の創造である。

c) ITS展開メニュー

多様なモビリティを重視した景観まちづくりにおける ITS 展開メニューとして、表3が考えられる。

③ 生活移動環境を重視した安全・安心の創造

a) 着眼点

成熟社会を迎え、人々は量的な充足よりも質的な豊かさを求めるようになってきており、近年、社会的不安が増大するに従い、安全で安心できる暮らしを強く望むようになってきている。日常生活における様々な移動環境における安全・安心の確保が重要である。

ITS を活用して、地域内の安全・安心な生活移動環境を実現し、地域の魅力向上と快適な生活を安全・安心の面から支えることを目標とし、誰もが安全で安心できる暮らしを実現する。特に、事故や災害の発生時の人やモノの所在と状況の確認機能の向上や的確な



◆主な機能 所在確認(位置等)・認識(人・モノの状態等) ⇒ 安全確認 ⇒ 決済(料金等)
⇒ 予測(到着時刻、所要時間等) ⇒ 意思決定支援(避難誘導、危険物処理、ルート選択等)

機能	Safety/security サービス (リスク管理)	一般的サービス (通常)
スマート携帯/ スマートカード	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者・子供の所在確認 事故・災害時等の緊急時における、人の特定・所在確認、迅速な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 乗物、施設等の利用料金の自動支払い 施設、空港等でのチェックイン・チェックアウト e-パスポート
ITS車載器/ スマートプレート	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の車両所在の確認、運転支援 産業廃棄物輸送車両の運行監視 危険物輸送車両の通行監視 交通難所等の危険箇所の車両通行監視 自動車盗難・犯罪対応 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車登録制度の情報化 ロードプライシング 物流車両の運行効率化 公共車両の優先交通信号制御 駐車場等の自動料金収受
スマートタグ	<ul style="list-style-type: none"> 不法投棄物の監視 荷物の安全性の確認 緊急時における積荷処理の的確な対応 (消火等) 	<ul style="list-style-type: none"> 在庫状況等の管理の自動化 荷物の位置・状態等の確認 荷捌きの自動化

図3 ITSによる安全・安心な生活移動環境のイメージ

避難誘導などの施策の展開を進めることが必要である。

b) 基本構想

日常生活において人の移動やモノの輸送の中で、様々な事故・災害・不法行為などの発生が考えられるが、そのような状況では安全・安心の確保が重要となる。ITSは、様々なリスク管理に有効であり、例えば、地震などの災害時の所在確認と避難誘導支援、産業廃棄物不法投棄の監視、危険物輸送車両の監視などが考えられる。

生活移動環境を重視した安全・安心まちづくりは、このようなリスク管理の仕組みを、ITSを活用して統合的に構築するものである。以下に述べるようにS(Safety/security) - ITSとして、平常時の利用も考慮したリスク管

理システムとして構築することが重要である。

S - ITSは、スマート携帯/スマートカード(人が携帯する交通ICカードなど)、スマートタグ(物流情報の電子化)、ITS車載器/スマートプレート(自動車ナンバープレートの電子化)が機能する情報共通基盤が基本である。図3に示すように、通常時のサービスでは、乗物や施設の利用料金の自動支払い、ロードプライシング、荷物の管理などに利用される。

Safety/security サービスでは、高齢者や子供の所在確認あるいは産業廃棄物や危険物の運送車両の運行監視、危険箇所の通行監視などが行われる。事故や災害の発生時においては、直ちに人やモノの所在と状態が確認され、

状況に応じた的確な人の避難誘導、あるいは危険物運送車両の危険物処理などの支援を行う。

このように、通常の一般サービスとリスク管理としてのSafety/securityサービスを併せ持つS - ITSの構築は、「安全で安心な暮らし」を望む地域社会にとっては必要不可欠なシステムと言える。ITSによる安全・安心まちづくりによって、日常生活における様々な移動環境における安全・安心の確保が実現される。

(2) ITSまちづくり基本構想モデル

大都市圏、地方都市圏、中山間地域の各地域において、具体的な地域を想定しつつ基本構想の立案と、それを実現するためのITSまちづくりの進め

方について検討を行った。ここでは、地方都市圏の基本構想（基本目標、基本方針）を例示し、ITSによるまちづくりの進め方（モデル的検討結果）を紹介する。

＜地方都市圏の場合＞

地方都市圏では、市町村合併が進み、都市地域と農山村地域との交流環境づくりが、また、都市部では、都市中心部の再生による都市の活性化が重要な課題となっている。都市地域と農山村地域の交流を如何に活発化させるか、都市中心部へのアクセス性を如何に向上させるか、その円滑な交通手段を如何に実現するか、さらに生活交通を如何に確保・維持・向上させるかが重要なテーマである。

このような視点から都市交通ビジョンを設定するものとする。

都市交通ビジョンを踏まえて、事業者や商業者をはじめ、まちづくりに関心のある市民団体等が参加して、「都市交通ビジョン懇談会」、いわゆるプラットフォームが設置される。広く市民を始め様々な主体の間で議論が展開される。このような議論を通して、基本構想の目標や基本方針の骨格が定まる。

基本構想の目標は、ビジョンを実現するために目指すものであり、現在の状況と地域の理想とのギャップに関する議論に基づいて作られる。地域が何を望むかを決定した後、基本方針を作成することになる。また、基本方針は、地域が目的を達成するための計画を示すものである。基本方針の策定では、多くの住民、NPO、企業などが最も強く課題と感じているテーマに関して課題を評価しながら、合意を得てその生活課題を集約し、優先順位を付けて決定される。

① 基本構想の目標

基本構想は、都市地域と農山村地域

＜都市交通ビジョン＞

■ 基本目標

活力ある都市の実現を図るため、都市地域と農山村地域の交流と地域のモビリティの形成を重視し、あらゆる人々が地域の魅力を享受できる交通体系を構築する。

■ 基本方針

- ① 都市地域と農山村地域の交流環境の創出
- ② 生活交通の確保・維持・活性化
- ③ 都心へのアクセス向上
- ④ 都市内における過度な自動車利用の抑制

（目標1）都市地域と農山村地域間に新たな関係づくりを生む交流環境の創出

人、自然、都市地域と農山村地域間に安全・安心なモビリティを提供することにより、双方の活発な交流や連携により新たな価値づくりを生み出す交流環境を創出する。

（目標2）多様でかつ安全・安心な交通環境の創出

多様な交通手段が共存し、かつ安全・安心なモビリティを提供することにより、都市の魅力を享受できる交通環境を創出する。

（目標3）適切な自動車需要による円滑な交通の創出

都市中心部に目的のない通過交通を迂回させることや、他の交通モードとの連携による自動車需要の適正化などにより、円滑な交通を創出する。

（目標4）公共交通の利用促進を図る多様なサービスの向上

信頼性と質の高い、そして誰にでも親しまれるサービス提供により、車利用からの転換など利用促進が期待できる交通システムを創出する。

（目標5）地域主体による誰もが利用できる生活交通環境の創出

地域の住民が主体となり、行政など関係者と協働で生活交通の確保・維持・活性化に取り組むことにより、誰もが利用できる魅力的な生活交通環境を創出する。

の交流と地域のモビリティの形成を重視し、都市部の活性化を目指すという計画理念を達成するために、都市地域と農山村地域の交流を如何に活発化させるか、都市中心部へのアクセス性を如何に向上させるか、その交通手段を如何に制御するか、さらに生活交通を如何に確保・維持・向上させるかを重要な視点として、次の5点を目標とする。

② 基本構想の方針

基本構想の方針は、都市地域と農山村地域の新たな関係づくりおよび都市中心部の再生に向けて、環境と経済の観点を重視しつつ、①地域の生活交通の充実による都市地域と農山村地域の

交流環境の創出、②公共交通システムの充実による人に優しい交通環境の創出、③自動車交通の適正化による道路交通の円滑化、④市民との協働による計画の具体化、⑤ITSの活用を図る、の5点とする。

③ ITSまちづくりの進め方

a) 地域の生活交通の確保・充実

バス路線が不採算路線として廃止され、路線数の減少とともに、鉄道・バスが利用できない公共交通空白地域は急速に拡大しており、生活交通の確保・維持・活性化は重要な課題である。基本構想では、都市地域と農山村地域間の円滑な交流環境を実現し、様々

(方針1) 地域の生活交通の確保・充実

都市地域と農山村地域を新たな関係づくりにより、様々な価値観と魅力あふれる暮らしを地域づくりの展開に向け、双方を結ぶ生活交通システムの充実を図る。

(方針2) 公共交通を軸とした交通システムの充実

都市の将来像であるコンパクトな市街地（市民生活の諸機能が集まった暮らしやすい市街地）の形成に向け、都市中心部へのアクセス機能向上やターミナル機能向上とともに料金制度などソフト施策の展開を進め、環境にも優しい公共交通を軸とした交通システムの充実を図る。

(方針3) 適正な自動車などの利用による交通の円滑化

都市中心部に目的のない通過交通を迂回させることや、他の交通モードとの連携による自動車需要の低減などを進めることにより、交通の円滑化を図る。

(方針4) 社会実験の継続と市民の協働によるプロジェクトの展開

交通動向のモニタリングや多様化するニーズに対応した社会実験を継続しつつ、市民、企業、行政などによる協働プロジェクトを展開する。

(方針5) 地域 ITS の成果・ノウハウ・人材の活用

ITS の検討・導入が既に行われている地域の成果・ノウハウ・人材を活用するとともに、ITS まちづくりのデータ・情報・ノウハウ・人材をデータベース化し、必要に応じて随時提供する仕組みを構築する。

な価値観と魅力溢れる地域づくりを交通面から支えることを目標としている。利便性が高く、誰からも親しまれる交通システムの実現に向けて、アクセス機能の向上策や地域におけるサービスの向上策などの施策展開を進める。

b) 公共交通を軸とした交通システムの充実

誰もが利用できる環境にもやさしい新しい時代の都市交通の実現に向けては、持続可能な交通システムとして公共交通を如何に活用するかが重要である。基本構想では、都市内における誰もが何時でも利用できる公共交通を実現し、都市の魅力の向上と活性化を交通面から支えることを目標としている。定時性の確保など信頼性が高く、質の高い、誰にでも親しまれる交通システムの実現に向けて、都心アクセス機能の向上策や都心内サービスの向上策などの施策展開を進める。

c) 適正な自動車などの利用による交通の円滑化

多様な交通手段が共存し、安全・安

心で円滑なモビリティを確保するためには、利用し易い公共交通による自動車交通需要の適正化と同時に、都市中心部での適切な自動車利用を図ることが必要である。このためには、都心に目的のない通過交通の分散化と適正な誘導による都市中心部の自動車交通総量の低減が必要である。基本構想では、都市内における適正な自動車交通を実現し、都市の魅力の向上と活性化を交通面から支えることを目標としている。円滑な交通の確保などの人と環境に優しい交通システムの実現に向けて、道路の整備策や都心通過交通対策などの施策展開を進める。

d) 社会実験の継続と市民との協働によるプロジェクトの展開

基本構想の施策展開を図っていく上では、交通動向のモニタリングや多様化するニーズに対応した社会実験を継続しつつ、市民、企業、行政などによる協働プロジェクトを展開する。

e) 地域 ITS の成果・ノウハウ・人材の活用

ITS の検討・導入が既に行われている地域の成果・ノウハウ・人材を活用するとともに、ITS まちづくりのデータ・情報・ノウハウ・人材をデータベース化し、必要に応じて随時提供する仕組みを構築する。

6 おわりに

地域が抱える交通、環境、安全・安心に係わる現状の課題を整理し、今後のまちづくりを支援するための ITS 展開メニューを示すとともに、ITS まちづくりの目標（将来像）・方針の検討、並びに、ITS まちづくりの進め方について検討を行った。近年、地方分権が進行する中、地域特性を活かした豊かな地域コミュニティの形成や住民参加によるまちづくりが極めて重要な課題となっている。「まちづくり」は、市民が地域資源や価値を見出し、自らの地域の良さを理解、創造することによって、自分たちの生活と生活環境の向上を図る活動である。地域 ITS の視点に立ち ITS というツールをうまく活用し、地域課題を具体的に解決していくことにより、ITS 展開に一層弾みが掛かることを期待する。